

---

# 愛のしるし

NAoK I CH I

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛のしるし

### 【Nコード】

N2141D

### 【作者名】

NAOKICHI

### 【あらすじ】

ねえ、好きって言ってよ……私は好きなの、大好きなんだよ。

ねえ、好き？

私のこと・・・好きって言ってよ・・・

いつまで待ったら、聞ける？

答えてよ・・・

・・・ねえ、私のことどう思ってるの？

半年前

「・・・好き・・・なの。」

なかなかでなかった声を振り絞ってやっとの想いで告白をした  
その日は返事をくれなかった

2日後、友達がメールして「一応、OK」って返ってきた

「好きなの？」って聞いても

「たぶん・・・あいまいでごめんm(――)m」

・・・そんなんじや納得できるわけないじゃん

みんなが付き合ってるって言ってたし、たぶん・・・付き合ってる  
んだろうな

そのあと、何度も手紙を書いた

「好き？」とか「部活ないときにどこかに行こうね」

でも結局返ってこなかった

わかってたけど・・・どこか、期待してる自分がいた

どこか行ったら絶対にお土産を買って渡した

ちよつとはどれくらい好きなのかわかってほしかった  
たぶん、何もわかってくれないんだろうけど。

重い・・・かなあ？  
毎日が不安でしょうがないよ・・・・・・・・・・

付き合ってから半年たとうとしてるのに、いまだに・・・気持ちを  
教えてくれなかった

「シャイだからしょうがないよ！」

富田が不器用ってことくらい知ってるよ  
でも私だつてもともと自分から行くタイプじゃないけど、それでも  
好きだから頑張ってるのに・・・  
なんで、いつも気づいてくれないの？

半年記念だから、今の気持ちを全部、ノートに書いた

「一緒に、帰ろう・・・!!」

何も言わずにこくんとうなずいてくれた

「じゃ、あとでねっ!!」

家なんて校門を出た瞬間から反対だけど、別によかった一緒にいれ  
るのが嬉しかったから・・・

私が富田を送ってた

みんなには「変だよ、普通逆だよな？」って言われちゃったけど・・・

私は、会えただけで幸せな気分になれたの

話は普通にしていって、笑いあつて  
まるで・・・

仲のいい友達みたいだった

ノートは結局返ってこなかった。

席だつてすごい近いのに、私から話しかけないと話せない  
・・・こんなの、絶対変だよ。

メールだつてしないし、話さないし、まるで・・・片思いじゃん  
いつまで片思いしたらいいんだろうね

誰か・・・教えてよ・・・

「別れたいかもしれない。」

友達に言ったら、

「大丈夫だよ、シャイなだけだつて！」

どうせ小さいことで悩んでバカみたいってそれくらいわかってるよ・  
・・・

何かが違う・・・がちよつとずつ溜まっていつて、私は彼のこと好  
きなんだよね？

なぜかそこも疑問に感じてきてしまった

帰ろう。

階段を降りたときそこに富田がいた

「わあっ！」

びっくりしてつい大きな声を出してしまった

急に見るといつもこう。

だって・・・びっくりしすぎて心臓とまっちゃいそうなんだもん

あ、どうしよう・・・

泣きそう。

なんで？

ねえ、私のこと・・・好き？

「ううっ・・・」

「ど、え？どーした？？だい・・・大丈夫、どつか痛い？えっ」

「・・・き？富田が思ってることが、わかんないよっ！！

なんで、私ばかり！！すっごい、すっごい好きなのに・・・

私がどれくらい富田のこと好きだかわかんない？

何も言ってくれないし、もう辛いだけだよ・・・！！！！

気づいてないでしょ？一回も好きって言ってくれたことないよ。

一緒にいてくれないのに付き合ってる意味なんてないよ！

いつまで片思いしたらいいの？」

好きだけど、このままなんていや。

わがままってことぐらいわかってるよ

・・・でもね、恋する乙女はいつでも情調不安定なんだよ？

この先ずっと私が富田に恋してる保証なんてどこにもないんだから・  
・・・

たぶん、私がこのまま何も言わなかったら、1年だって簡単に迎えられると思う

でも今のままで満足できないの

中学生になって2年がたって・・・

いまさら、小学生みたいなぬるい愛なんていらない。

中学生だって、大人みたいな甘い恋がしたいんだよ

「……。」

「……何も言ってくれないんだ。」

「もういーよ」

本当は「もういーよ」なんて言わせないでほしかったなあ……

別れようか

次に出てくる言葉はそれしかない

でも、本当は好きなんだよ？

ずっと一緒にいたいんだよ？？

何かが、次の言葉を出させまいと止めている

「……ごめん」

「……どーゆう意味でのごめん？」

終わっちゃうのかな……

「……。」

合わなかったのかな？

私たち

「……好き……です。」

うつむいていた顔を思わず上げた

そこには赤面した富田が立っていた

嬉しくて言葉にならない

「……ふうえ……ふっ、うえ」

やっぱり、嬉しくったって泣いちゃうよ……

急に顔が近づいてきてて、おもわず

「え？」

「キス・・・しても・・・いいですか？」

「・・・はい。」

甘くってとろけるような、キスだった  
学校ってことも忘れてた

ゆっくり目を開くと、彼は硬直してた

「大好き・・・」

こくんとうなずいてくれた

「でもさあ、普通、していい？って聞かないよ・・・

ふふっ、やばい！！うけるわぁゝあはははっ」

「緊張してた・・・んだよっ」

私のほっぺをつまんで引っ張った

「いひゃいゝ」

ちよっただけ私を睨む

・・・知ってる、富田って究極に恥ずかしいとき私のこと睨むよね？  
ばぁーか。（笑）

・・・大好きだよ

恋をしたり、されたりって素敵だね

何気ない日があるただで輝いた日にしてくれる

隣にいる幸せを教えてくれてありがとう

あなたが嬉しかったら、私も嬉しくなっちゃうし

あなたが悲しそうにしてたら、私も悲しくなっちゃう

結構、私の中心はあなたかもしれないね・・・



2人で笑い合つてすごしていく日々はいつまでも……………宝  
物だよ

不器用な私たちだけど、

1年後も、2年後もあなたの隣で笑っているのはどうか、

私でありますように

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2141d/>

---

愛のしるし

2011年1月28日14時57分発行